

# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」教材研究会レポート No.5-①

## 四万十市立中村中学校 教材研究会

令和元年8月22日(木)

国語科 第1学年

「根拠を明確にして魅力を伝えよう」

提案者 国語科部会



学習指導要領の主旨を具現化した授業づくりを目指すために、教材研究の再考と更なる充実が求められています。すなわち、見方・考え方を基盤に学びの系統を捉え、単位時間の授業改善という視点を越えて、単元開発の研究に向かうことが、今、期待されています。

教材研究をするということは、単元をつくるということです。そして、その単元は目の前の子供にとって最適であるかどうかを常に見つめながら、再考し続ける姿勢が大切です。

### 目指す生徒の姿

- ・絵の良さについて根拠を明確に自分の考えを持つことができる。
- ・感じたことを表す語彙を増やすとともに、表現の効果を考え、自分の文章に生かすことができる。

### 協議内容のまとめ

- ・ピクチャーガイドは必要か? → 生徒の主体的に取り組めるか?
- ・いきなり書くのは難しい?
- ・書くのがゴールではなく、書くまで。

- ・授業前(単元前)に言葉集の必要語彙指導
- ・どれくらい書くのか → 見直し
- ・鑑賞文としてこの教材でいいか?

友だちの絵で  
目指すゴールについて  
↓  
名画の鑑賞文について

絵の良さは  
どう見ればわかるのか

単元の系統性	導入 (1時間)	中盤 (2時間 本時2/2)	終末 (2時間)
<p>【この単元と関連した領域の付けたかた内訳】</p> <p>(小)第5学年及び第9学年</p> <p>日 書くこと</p> <p>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書くこと(「手紙」など)。</p> <p>(中)第1学年</p> <p>書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や手紙の立場によって、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。</p> <p>1 学期には、読み手によって分かれるような文章を認めるとともに、自分の叙述の仕方に着目して、読者の工夫を考えて文章を書く学習を行っている。</p>	<p>◆付けた力</p> <p>学習の意図を持ち、これまでの学習を活かして鑑賞文を書くことができる。</p>	<p>◆付けた力</p> <p>筆者が「神楽川沖渡裏」の魅力をどのような観点から分析し、それを根拠にどのように表現の工夫をしているかについて考えることができる。</p>	<p>◆付けた力</p> <p>作品を鑑賞し、相手や目的を意識して、その魅力が伝わるように根拠を明確にして文章にまとめることができる。</p>
	<p>●「神楽川沖渡裏」の絵を鑑賞し、「構図・配置」対象「色彩」(書)などの観点に着目して、鑑賞文を書く。</p> <p>作品の良さを伝えるためには、どんな表現がいいか</p>	<p>●神楽川原平の「神楽川沖渡裏」の文章が根拠を明確にしていることとを捉え、それを自分のピクチャーガイドに生かす</p> <p>●神楽川「神楽川沖渡裏」の文章の表現の工夫を捉え、それを自分のピクチャーガイドに生かす。</p>	<p>●文化祭に展示する絵のピクチャーガイドを保護者に分かりやすいように、根拠を明確にし、表現を工夫して書く。</p> <p>●ピクチャーガイドを読み合い、互いの根拠の示し方、表現の工夫について考えを深める。</p>

自分に足りないものは?

### 協議の視点

- ①単元ゴール(単元終了後の目指す生徒の姿)の設定はこれでよいか。
- ②単元構想はこれでよいか。

### 研究協議

各グループの協議からは、次のような意見が出されました。

- ・単元ゴールの設定はこれでよいのではないかと。ただし、根拠を明確に自分の考えを持たせるためには、この単元構想では難しいのではないかと。
- ・プロの描いた絵からは、「色彩」「構図・配置」「全体の印象」等の観点が具体的によく分かるが、生徒の描いた作品から、これらの観点を指摘でき、文章にできるのか。
- ・どのようになったら根拠が明確になっていると言えるのか、評価が難しい。何をもち根拠とするのか、教師側が明確にしていなくてどのように評価したらいいのか、ゴールがぼんやりしてくるのではないかと。
- ・ピクチャーガイドを書くことが子供の主体的な学習になるのか。

### ここがポイント!

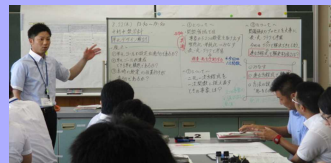
「B書くこと」の領域は、「題材の設定・情報の収集・内容の検討→構成の検討→考えの形成・記述→推敲→共有」という学習過程に沿って構成され、これが言語活動を回していく上での原動力となります。そのため、単元の中盤で、取材をし直したり構成をし直したりするなど、もう一度、サイクルの直し直しをしていくような展開をすることも大切です。また、子どもの作品で鑑賞文が書けそうになければ使わないと判断することも大切です。このような判断ができるかどうかも含めて展開を設定していくことが求められます。つまり、指導計画には、ピクチャーガイドを作っていくプロセスが可視化され、言語活動がどのような様相で回っていくのかを示していくことが必要です。

なぜ、表現や言葉に着目するのか。それは、根拠を明確にするためです。自分が言っていることの妥当性や信頼性を獲得するために、誰もが納得してくれるような言葉を見つけなければいけません。だからこそ、根拠となる事例や専門的知見を引用する必要が出てきます。これが、中学校第1学年に期待されているレベルであり、単に「表現や言葉に着目する」と言っても、小学校とは目的やレベルが変わってきます。

四万十市立中村中学校 教材研究会

令和元年8月22日(木)

数学科 第2学年「一次関数」 提案者 数学科部会



目指す生徒の姿

- ・具体的な事象について、伴って変わる二つの数量を取り出し、変化や対応の様子を調べ、理想化・単純化したりして一次関数とみなし、その事象の特徴を捉えたり、結果を予測したりすることができる。
- ・表、式、グラフを用いて、一次関数を用いた問題解決の過程やその結果を表現したり処理したりできる。
- ・一次関数のよさを実感して、粘り強く考え問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

協議の視点

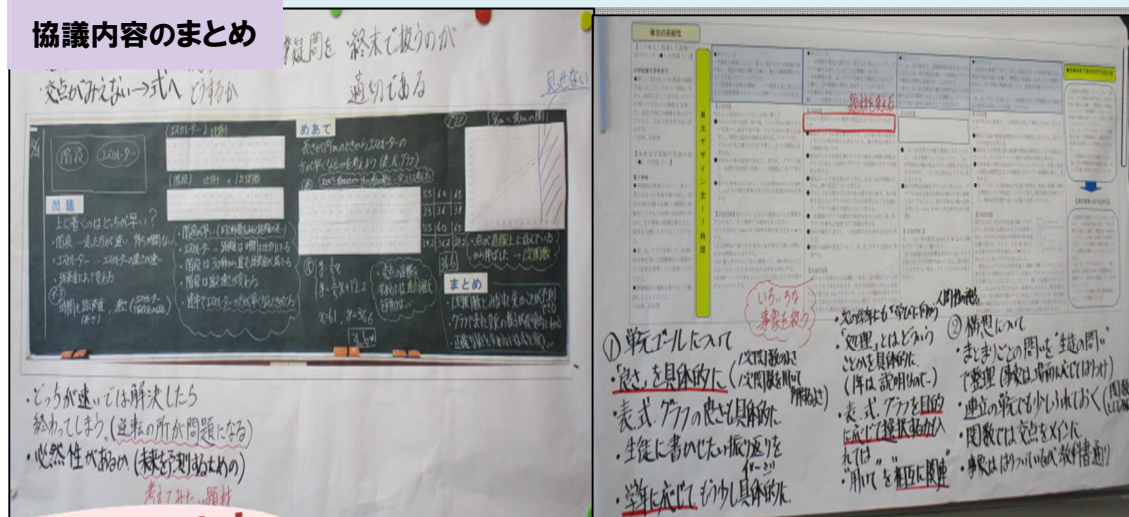
- ①単元ゴールの設定は適切であるか。
- ②単元ゴールが達成できる単元構想であるか。
- ③本時の授業の位置付けが適切であるか。

研究協議

各グループの協議からは、次のような意見が出されました。

- ・単元ゴールについては、一次関数を用いて解決するよさや表、式、グラフのよさを具体的に示す必要があるのではないか。
- ・学年に応じた資質・能力を具体的に示す必要があるのではないか。
- ・単元構想については、まとめごとの問いを生徒の問いになるように整理する必要があるのではないか。
- ・連立方程式の単元においても、一次関数にも関連する指導を行う必要があるのではないか。
- ・本時については、式を扱う必然性を「交点が見えない」という設定にすればどうだろうか。
- ・未来を予測することを考えてみたくなる題材が必要ではないか。

協議内容のまとめ



ここがポイント!

指導案において、各次ごとの単元ゴールには、資質・能力を身に付けた具体的な生徒の姿で示す必要があります。第2学年においても、比例、反比例の学習を基に、一次関数について理解し、関数関係についての理解を深めていきます。関数の領域においての学び方を繰り返すことも大切ですが、各学年の能力のグレーディングをどのように育成していくかを計画していく必要があります。

具体的な事象について、データに誤差が含まれるときには、能率的に処理できるように理想化したり単純化したりすることで定式化し、問題解決の目的を明らかにして、数学的活動を組織していくことが大切です。その際、表、式、グラフのよさを実感できるように単位時間を積み重ねながら、数学的活動の質が1年生より高まっていくよう単元を構成し、数学を学ぶことの楽しさを実感していくことがポイントとなります。なお、予想と結果に違いがある場合は、その原因を考えたり、よりよい予想のための工夫をしていくことも重要です。



学力向上総括専門官指導～能力ベースの授業づくりに向けて～

専門官による指導板書

指導講話

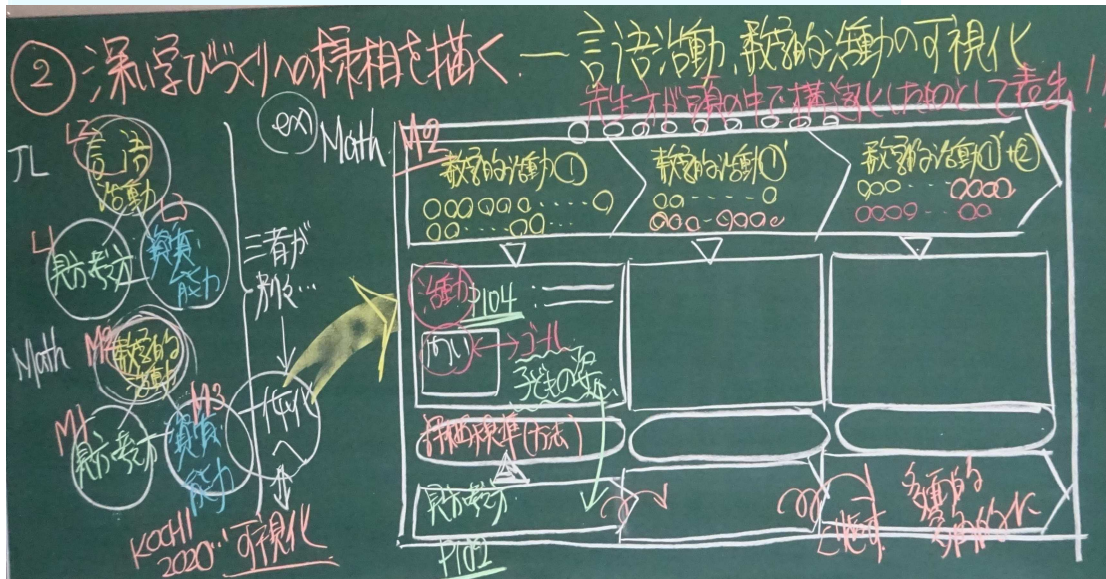
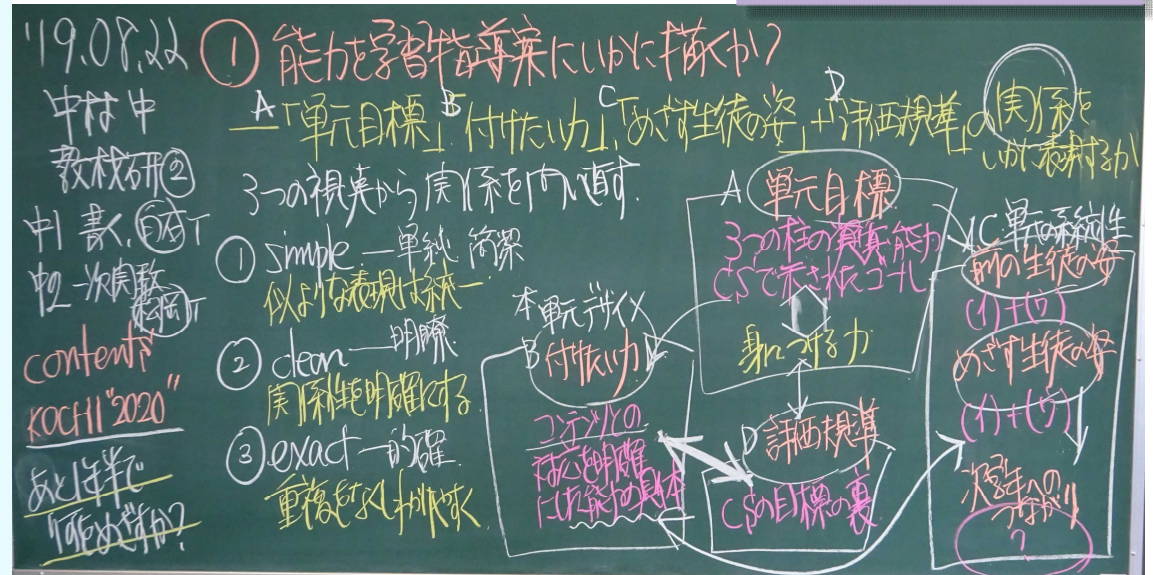
能力を学習指導案にいかに描くか

学習指導案の作成において、例えば、中村中学校の指導案であれば「単元目標」「付けたい力」「めざす生徒の姿」+「評価規準」の関係性をどのように示していくかが問われます。

その際、次の3つの視点から関係を問い直すことが重要です。

- ① Simple—単純、簡潔、似よりの表現は統一、単純にしていこう。
- ② Clear—明瞭、中村中の指導案であれば「単元目標」「付けたい力」「めざす生徒の姿」+「評価規準」の関係性を明確にすること。誰が見ても分かるものにしていくということ。
- ③ Exact—的確、果たして、それが的確であるか。誰にでもそれが間違いなく伝わるかどうかということ。そのためには重複をなくして、分かりやすく整理するということ。

つまり、能力を指導案に描いていくには、指導要領や教科目標、そして、学習指導要領の「第3指導計画の作成と内容の取扱い」の主旨を理解することが大切です。



深い学びづくりへの様相を描く

能力ベースの授業づくりに向けて、深い学びを描く指導案にしていくことが肝要です。つまり、言語活動や数学的活動等を指導案にどのように仕込むかを具体的に可視化していくことが大切です。

例えば、国語であればピクチャーガイドを作るということを言語活動として示すのではなく、ピクチャーガイドを作るプロセスを可視化することが大切です。数学であれば、指導要領に書かれている数学的活動を単に示すのではなく、この単元としてどういう数学的活動を組織していくのかを可視化していくことが大切です。

さらに、国語科なら、見方・考え方、言語活動、資質・能力の三者を、数学科なら見方・考え方、数学的活動、資質・能力の三者を別々のものではなく一体的に構造化して、それを指導案に可視化して示すことが大切です。すなわち、学習指導案は、指導者の頭の中を整理するために書くということなのです。







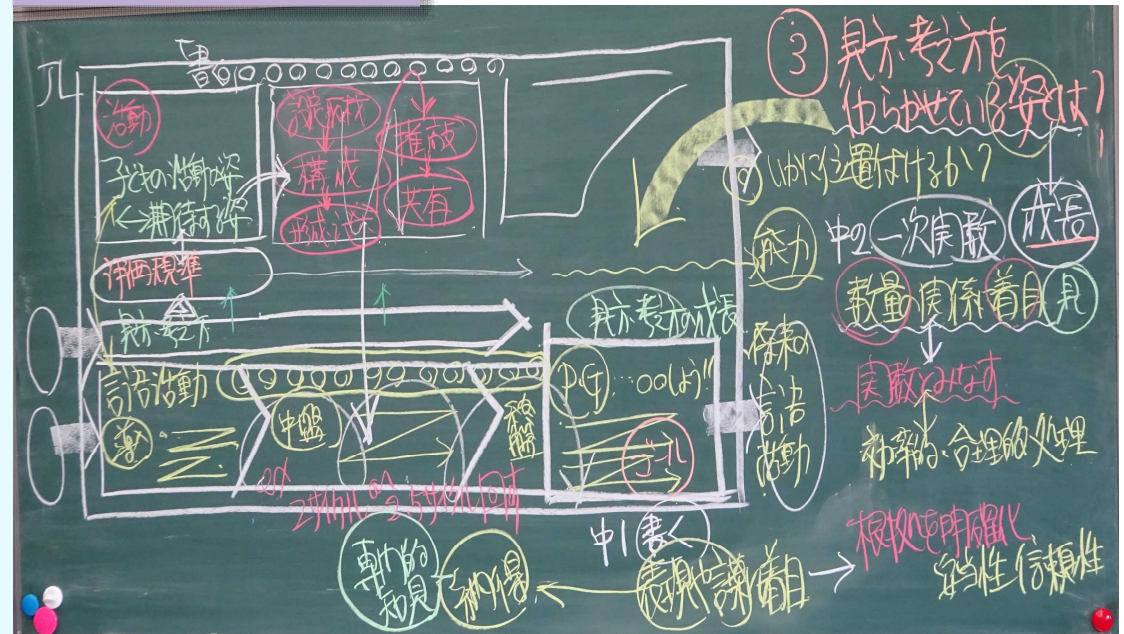
「高知の授業の未来を創る」  
推進プロジェクトを check!

## 見方・考え方の成長を位置付ける

資質・能力ベースのゴールには、こういうことができる・こういうことが考えられる・こういう表現ができるという生徒の姿で指導案に示す必要があります。そして、ゴールに向かうためには、生徒の活動の姿や見方・考え方を働かせている姿を体系的に示し、どのように成長していくのかが分かるように単元計画にいか位置付けるかが重要となってきます。

例えば、中2の数学「一次関数」においては、見方・考え方を働かせている姿が、小学校4年からの成長していくプロセスとして示していくことが大切です。なぜ「関数とみなす」ということをしているのでしょうか。それは、関数とみなすことによって、効率的・合理的処理ができる姿を期待するためです。小学校の子供たちが、数量関係に着目しているのは、「関数とみなす」ためではありません。数量関係を見つめていた結果そういうものが見えてくるのです。つまり、各学年において、数量関係に着目するという視点は同じでも、目指す姿が異なることを理解して、見方・考え方が成長している姿を指導計画に位置付けることが重要となります。

## 専門官による指導板書



## 研究協議から見えてきたこと

- 生徒に本気で取り組ませるためには、本物を素材に持ってこなければいけないこと、また、単元を通してどう授業をつくれればよいのかを改めて確認することができました。  
それぞれの領域の力を付けるためには、何度も何度もやらせることが大切なので、もう一度、一から単元構想を考えていきたいと思えます。(国語科 白石 教諭)
- これまでの指導案では、単元目標や身に付けたい力、評価規準など、同じようなことが書かれており、整理がされていないので書き方を工夫する必要があります。  
今後は、単元づくりにおいて目指す生徒像を具体的に示して、日常場面を貼り付けていくことと生徒の問いをまとまりで考えることをしていきたいです。(数学科 松岡 教諭)

## 参加者の声

- 今まで使っていた計画や指導案の見直し、整理を行って数学的活動、見方・考え方、資質・能力の一本化、そして、それが可視化された指導案作りにチャレンジしていきます。
- 「学習指導案は、教師が頭の中で、構造化したものとして表出されるもの」という言葉で学習指導案に対する見方や考え方が変わりました。
- 新学習指導要領の全面実施に向けて、それまでに自分たちが何に取り組んでいけばよいか明確になりました。
- 国語科で取り組んでいる「根拠を明確に」という点について、各単元においてどのように評価するのをはっきりさせておかなければいけないことを学びました。
- 領域間のつながりを意識した単元計画を作成する必要があると思いました。

資質・能力ベースの授業に期待されていることに関心をもちながら、大胆かつ繊細に授業づくりの新しい扉をともに開きませんか

check!

次回 令和元年12月16日(月) 教材研究会

数学科・理科・英語科